

いいね! ガレージ ある暮らし

のし。

それが、ガレージのある家

クルマ趣味を存分に満喫する夢空間、
そして、奥様に心から感謝する
心地よき居場所――

一流ハウスメーカーが、
そして気鋭の建築家が手掛けた
“ガレージのある家”を紹介しましょう。



仲良き夫婦、明るい家庭、
その秘訣はがまんしないこと。
言いたいことは言いあうし、
家創りだって、ガレージ最優先!
だって、ボクはクルマが大好きなんだから。
……キミの次にね。



みんな仲のよいご家族。Kさんはマセラティ・クラブ・オブ・ジャパンでも活躍している。愛車スバイダーザガートは、奥様への誕生日プレゼントだと言いつ張るKさん。それは、もう一台“自家用の”マセラティが欲しいからだ。その筋では名高い“神戸シングルナンバーのギブリ”が間もなくKさんの元にやってくる。

Maserati Club of Japan
<http://www.maseraticlub.jp/cov er.html>



Architecture file

01

K邸
 東京都

設計◎連健夫建築研究室

ガラスの箱のガレージ。 光とマセラティの家。

憧れのマセラティは自分へのご褒美。
 独立して事業に打ち込んできた若き施主は、
 がんばって事業目標を達成できた時に、望みをかなえる許可を自身に与えてきた。
 念願かなって完成した夢のマイホームも、自分自身へのひとつのけじめだった。

text : Yuji-Ohishi (大石裕二) photo : Masayuki-YOSHIMI (吉見雅幸)

ガラスと木、ガルバニウム金属がたくみに融合され、施主のイメージを具現化したかのようなたずまい。木質、シルバー、ネイビーブルー、イエローの色使いもまとまっている。



一念発起して独立して事業を立ち上げたKさんは、決めた目標を達成するごとに自分へご褒美を贈ることにした。それは、憧れのマセラティ スパイダー・ザガートであり、また最近クリアした高いハードルの褒章こそがマイホームだった。この目標をクリアするまでは家を建てない、そう決めていたKさんにとっては、これは自分自身への大きなけじめとなったようだ。

そんなKさんの家造り、デザインは以前からの知

人である建築家の連 健夫(むらじ たけお)さんに依頼することに決めていた。連さんの住宅デザインには独特の手法がある。まず、施主と家族みんなにコラージュを作ってもらうのだ。これは、家に対するイメージや求めるもの、さらには趣味や関心ごとなど、思いつくままに写真や雑誌の切り抜きなどを貼ったものを作ってもらうのである(P26の写真参照)。

ご主人はもちろんマセラティ、そして鳥居などの

和のイメージとモダン住宅のクールなイメージ、さらには腕時計やワインなど、一見関係ないもののイメージの氾濫がコラージュされていた。奥様は青い空、白いビーチのリゾート、お子さんはかわいらしく星型と、家族みんなとなったら、もうこれは収集がつかないと思われるほど。

しかし、建築家はここから家造りのキーワードを読み取り、租借し、再構成して、図面へと落とし込んでいった。こうしてコラージュだけから導き出され



ガレージドアは大きなガラス板がはまった引き戸。ガレージ内は在来工法の梁がアラワンとされている。右側の窓は寝室のもの、リアは玄関ホールにあたる。



1/左に見える黄色いのが玄関ドア。ガラス張りとしたガレージ側壁を通過してそこへ続くエントランスには、連なる鳥居をイメージした木のゲートが並べられた。2/鳥居をくぐって玄関ドアへ至るイメージ。玄関ドアには丸い意匠=Kさんの腕時計のイメージが施されている。左はクルマ3台が縦列可能な屋外スペースになっている。

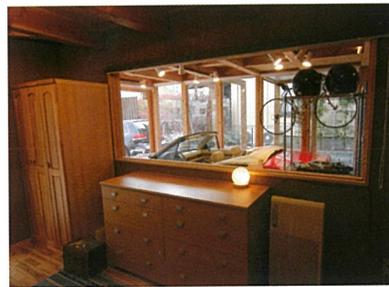
5面がシースルーとなったガレージは “ガラスの箱”だ。



ガレージは今度くる'68マセラティ ギブリも念頭において設計。天井は2階床と共用するカラ松の1枚張りだが、その大部分はFRPグレーチングとポリカにより、クリア仕上げとなっている。



一般的には金属製が多いらせん階段も、木の家らしく、すべて木材で造られた。太く高い柱ももちろん木材だ。唯一、金属製で赤い手すりアクセントになっている。



寝室からは、施主自身が「いやらしいほど」と表現するスパイダー・ザガートのインテリアが眺められる。内壁はパーティクルボードに桐の油を塗って、コルク調に仕上げている。

たプランニングの第一案ができた。実は、施主のKさんには自分の家に対する具体的なイメージはなかった。それはイメージできないというよりも、「あれこれ考えても、しょせんは素人のイメージ。建築家のイマジネーションにかなうものではない」という考えがあつてのこと。

そう考えていたKさん、出来上がった第一案を見てこれに一目ぼれ。大事なマセラティも、あれこれいわずともちゃんとプランニングの中心に据えられ、「住居から愛車が見える」というマニア心を満たす趣向も取り込まれていた。大満足したKさんは、このプランをベースに、主に細部をさらに煮詰めていく作業を建築家と行い、ついに完成させたのだった。

では、Kさんとご家族のコラージュ(イメージ)が、どのように家に反映されていったのかを見ていこう。

まずは、Kさんの愛車、スパイダー・ザガートが納まったガレージ。ここは“ガラスの箱”がイメージされた。出入り口は大きなガラスがはまった引き戸、エントランス(ここに並んだ木のゲートは、連なった鳥居をイメージしている)に面した側面もガラス張りだ。玄関を入った右側もガラス戸、寝室にもガレージ内を眺められるガラス窓が設けられた。さらに驚かされるのは、ガレージの天井部分にも窓が設けられていて、上のLDKと視線がつながっているのである。ちょうど食卓テーブルの下、足元が透明で、ここからマセラティの最も魅力的なインテリアを見下ろすことができるのだ。この部分はFRP製グレーチングにポリカーボネートの透明パネル



ロフトを登ると左側が屋上になっていて、屋上からはハシゴでウッドデッキに降りられる。らせん階段の向こう、両側には子供部屋が設けられている。



Architecture file

01

K邸
東京都

設計◎連健夫建築研究所

建築家から

打ち合わせと称した雑談を何度も繰り返させていただいた結果が、満足のゆく“家”になったと思っています。見所を挙げるとキリがないのですが、道路から玄関へのウッドデッキ・アプローチ、オリジナルのオープンスタイル・アイランドキッチン、トップライトで明るく清潔感一杯の洗面所（北側）、床材・幅木・周縁・ドア・階段などの建材は全て無垢の材、ガレージの排気ダクトシステム、ガレージ奥の秘密基地（オリジナルデスク、シャワールーム完備）などは、打ち合わせの中から創意工夫を盛り込んで得たポイントです。

連健夫建築研究所
連 健夫（むらじ たてお）さん
東京都渋谷区桜丘町12-8 渋谷コーポラス209
phone : 03-5456-5134
<http://www.muraji.jp/>

家と生活のイメージを コラージュ製作により引き出して プランニングに反映させる。

Kさんご家族がそれぞれの家のイメージや好きなものを貼り付けたコラージュ。建築家はここから家のデザインを具体化していく。



自分の家のココが お気に入り

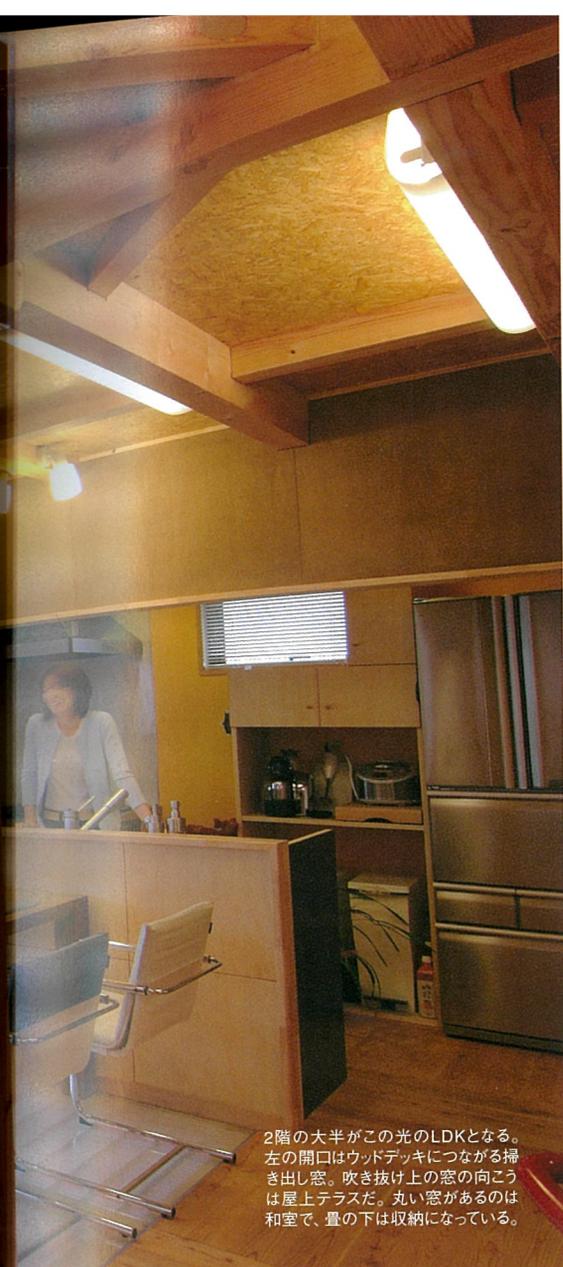
まずはガレージ。愛車のマセラティが映える仕上がりですし、室内の色々な場所からも眺められます。リビングも子供部屋とつながっていて、子供の気配がいつも感じられるのがいいですね。

自分の家のココが 気になるトコロ

実際に使い出してみると、収納がやや足りないかなという気がします。収納スペースは、自分の持ち物の2割増しの荷物が納まるくらいに考えた方がいいと思います。

読者への アドバイス

気のあった建築家とどこんやり合うことでしょうか。でも、施主が出しすぎない方がいいと思います。また中途半端に完成させるなら、将来手を入れるところを残すくらいがいいと思います。



2階の大半がこの光のLDKとなる。左の開口はウッドデッキにつながる掃き出し窓。吹き抜け上の窓の向こうは屋上テラスだ。丸い窓があるのは和室で、畳の下は収納になっている。

が用いされた。これにより床以外の5面がシーズルーとなり、ガレージはまさしく“ガラスの箱”となっている。

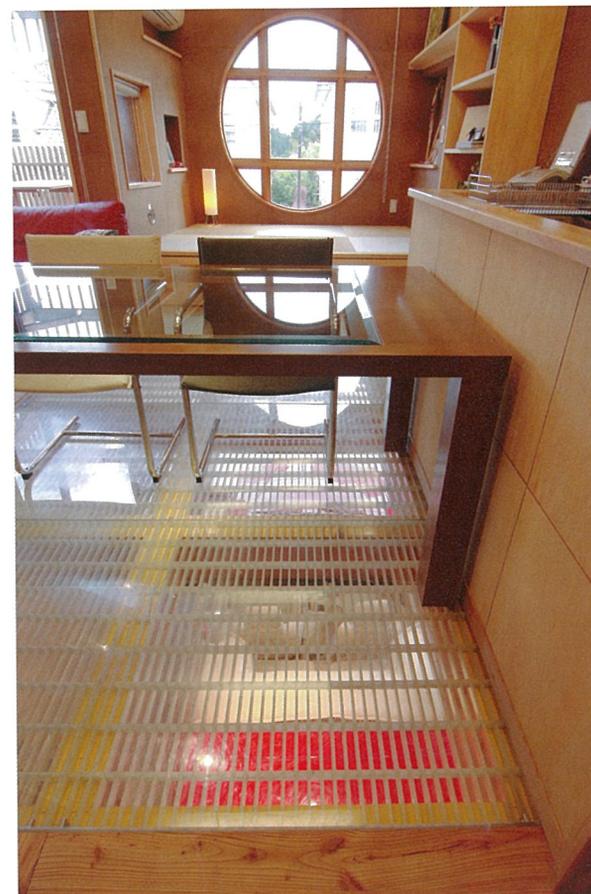
建築家・山本理顕氏が好きで、コンクリートやモダンな家に憧れていたKさんだったが、家族ができ、子供ができてからは、温かみのある木の家がいいと思っていた。1階ガレージはガラスのモダンイメージとなったが、2階を中心とした居住空間は、木の質感が強調されている。まずは、絶対にほしかつたらせん階段からして木製！ その階段を上った先、2階にあるのはLDKと子供部屋のみだ。このLDK、壁はパーティクルボード、天井はOSB合板、床にはカラ松の三層合板と、それぞれ素材に変化をつけている。また床はガレージの天井を兼ねていて、つまり2階床＝1階天井が板1枚なのである。これはコストダウンのためでもあるが、これでも十分に暖かいそうだし、2階を元氣よく走り回る子供達の足音が下で聞こえて、ほほえましくも安心感があるのだという。

2階には、この家のもうひとつの特徴が造りこまれている。それが、LDKと続きとなった和室に設けられた大きな丸いガラス窓だ。これは実は、コラージュの中のKさんの腕時計に対する思いを形にしたものだ。窓の丸が、時計の文字盤の丸を現しているのである。この丸窓の向こうに見える借景は、計算どおり心落ち着く緑となっている。このK邸では、窓はそれほど多くはないのだが、この丸窓や最上部に設けられた効果的なトップライトなどにより、差し込む光には表情があり、それも季節と時間によって異なってきて、その時々でLDKを様々な光で照らし出しているのである。

“光とマセラティの家”——そう名付けられたこのK邸は、“光”＝建築家の演出、“マセラティ”＝施主、と考えられるように、デザイナーとオーナーそれぞれが自分の個性を発揮させた家となっているように思えた。

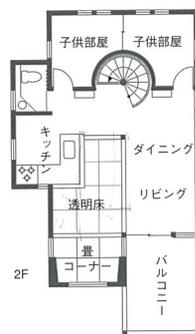


キッチン、リビングダイニング側に突き出す格好だ。これは調理をする奥様と家族との一体感を出すため。キッチン台は木製で、これはオリジナル製作したものだ。



ダイニングテーブルの下がちょうどガレージの見下ろしにあたっている。ポリカーボネイトではなく強化ガラスでもいいのだが、ガラスは滑りやすく、子供のいる家では少々不安が残る。

Kさんお気に入りのお風呂。その向こうにある坪庭から差す光や景色が心地いい。坪庭はこれから仕上げしていく予定だという。



所在地：東京都
 施主：Kさん
 家族構成：夫婦＋子供2人
 竣工年月：2006年11月
 構造：木造在来工法 2階建て
 敷地面積：約185㎡
 延床面積：約100㎡
 ガレージ面積：約14㎡
 愛車：'93マセラティスバイダーザガート、
 '68マセラティギブリ、
 ハーレーダビッドソンFXDほか
 総工費：2500万円